「互いに愛し合いなさい」　2025 年 12 月 11 日

なぜなら、互いに愛し合うこと、これがあなたがたが初めから聞いている教えだからです。カインのようになってはなりません。彼は悪い者から出て、兄弟を殺しました。なぜ殺したのか。自分の行いが悪く、兄弟の行いが正しかったからです。きょうだいたち、世があなたがたを憎んでも、驚いてはなりません。私たちは、自分が死から命へと移ったことを知っています。きょうだいを愛しているからです。愛することのない者は、死の内にとどまっています。きょうだいを憎む者は皆、人殺しです。人殺しは皆、その内に永遠の命をとどめていないことを、あなたがたは知っています。御子は私たちのために、命を捨ててくださいました。それによって、私たちは愛を知りました。だから、私たちもきょうだいのために命を捨てるべきです。世の富を持ちながら、きょうだいが貧しく困っているのを見て憐れみの心を閉ざす者があれば、どうして神の愛がその人の内にとどまるでしょう。子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いと真実をもって愛そうではありませんか。（Ｉヨハネ 3：11～18）

著者は、「神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行わない者は皆、神から出た者ではありません。きょうだいを愛さない者も同様です」と、きょうだいを愛さない悪魔の子どもにならないように勧めた。「なぜなら、互いに愛し合うこと、これがあなたがたが初めから聞いている教えだからです」と諭している。「ヨハネ教団」において、初めから聞いていたのは、互いに愛し合いなさいという戒めであった。著者は、創世記 4 章に記されたカインとアベル兄弟の間で起こった人殺しを例に挙げている。兄カインは悪い者に属し、弟アベルを殺した。カインは行いが悪く、アベルは正しかったから殺された、正しい者は苦難を受けると解釈している。「きょうだいたち、世があなたがたを憎んでも、驚いてはなりません」と、正しいあなたがたが世から憎まれても当然である。しかし、「私たちは、自分が死から命へと移ったことを知っています。きょうだいを愛しているからです」と、きょうだいを愛し、死から命に移された救いを語る。愛さない者は死にとどまっており、きょうだいを憎む者は人殺しである。あなたがたも知っている通り、人殺しは永遠の命をとどめていない。愛と人殺しを対比させ、命と死の分岐を際立たせている。そして、「御子は私たちのために命を捨ててくださいました。それによって、私たちは愛を知りました」と、主イエスの十字架による贖罪を告げ、そこに現わされた愛を語り、「だから、私たちもきょうだいのために命を捨てるべきです」と説く。ヨハネ福音書 15 章 12～13 節で、主イエスは、「私があなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これが私の戒めである。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」と語られた。著者は、「世の富を持ちながら、きょうだいが貧しく困っているのを見て憐れみの心を閉ざす者があれば、どうして神の愛がその人の内にとどまるでしょう」と語る。この言葉に心を痛めない者はいないだろう。傷ついた旅人を見ながら、素知らぬ顔をして通り過ぎた祭司、レビ人（ルカ福音書 10 章）が私たちの常の姿であるからである。著者は、「子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いと真実をもって愛そうではありませんか」と呼びかけ、信仰は抽象的な理念を弄ぶことではなく、行いを伴う具体的な愛を生きることである。また、愛は強要されるものではなく、ご自分を十字架に献げられた主イエスの愛を知っているので、その愛に押し出され、きょうだいに対し心を開いていくと諭している。